中央・新旭川まちづくり推進協議会 会議録 令和6年度第2回

会議概要	
日時	令和6年11月22日(金曜日) 午後6時30分から午後8時まで
場所	旭川市役所 7階 大会議室 B
出席者	委員 (14名、正副会長以外は50音順) 山田会長、中村副会長、伊藤委員、今井委員、大久保委員、上野委員、大西委員、 佐藤(信)委員、素野委員、谷越委員、十川委員、長谷川委員、福原委員、山岡委員 (欠席者 久住呂委員、佐藤(朋)委員、佐藤(日)委員、高木委員、高橋委員、 蔦川委員) オブザーバー 旭川市地域まるごと支援員 成田支援員 事務局等 地域活動推進課 岩崎次長、小松主幹、阿部主査
会議の公開 ・非公開	公開
傍聴者の数	0名
会議資料	次第 資料1 地域まちづくり推進協議会の在り方について 資料2 中央・新旭川地域の補助事業 令和6年度の進捗状況

(補足)「中央・新旭川まちづくり推進協議会」を以下「協議会」という。

議事の内容

1 開会

出席委員の確認、オブザーバー出席者の紹介を行った。

2 地域まちづくり推進協議会の在り方について

資料1のとおり説明した。主な質疑応答は以下のとおり。

(委員)

地域によって、子供向けの活動をしていたり高齢者向けの活動をしていたり、それぞれの特色があるため、地域ごとに活動内容を分けたほうが良いのではないかと。

(事務局)

現在の協議会は、様々な団体等の方が集まって会議にも参加してくれている。地域の課題を持ち寄って共有して、課題解決に向けた取り組みをしたいという目的がある。各分野の方だけで集まっても課題は解決できるが、自分たちのほかにどのような課題を持ち、どのような活動をしているということ、自分の地域に持ち帰り共有してもらえれば、協議会の意義になるのではないかと。

(委員)

協議会というものが漠然とし過ぎていてよくわからない。地域の意見を吸い上げて共有すると言っても、この会議では特段の意見が出てこない。みんなも理解が追いつかず何を言えばいいのかかわからないのではないかと。協議会の会議は年に3回やっているが、何も結果が見えてこず、進展していない印象を受ける。

(事務局)

過去には協議会自体が事業を実施できていたが、途中から制度が変わり、実行委員会を設立しないと補助金を受けられなくなり、各地域でそれぞれの課題に応じた実行委員会が立ち上がった。そのため、協議会の場で各地域での課題を話し合っていた形式が、実行委員会単位での話し合いになった。本来であれば、町内会や市民委員会ではできないことを全体で話し合う場であったが、地域ごとに課題が違うため、徐々に形骸化していったと思う。

(委員)

地域ごとに課題はあるが、担い手不足や高齢化など共通の課題もある。どこかで活動している内容がほかの地域で役立つかもしれない。狭い範囲だと見つからなくても、協議会という広い範囲になると人材の発掘やノウハウの引継ぎにつながるかも。

(事務局)

ほかの地域がどんな活動をしているのか知るために、横のつながりを作ろうということで、今年度は市内の全地区の協議会を対象とした研修会を開催した。ただ、開催して終了では意味がないので、研修会の内容や進め方の良し悪しについて検証し、今後の展開や波及効果を考えなければならないと考えている。

(委員)

これまで協議会では、各地域の共通点を見出して話し合ってきた。7つの地区に分かれているため、それぞれの歴史があり、課題も違うため、1つにまとめるのは難しいが、小さな共通点を探しながら進めていくのが良いのではないかと。

3 中央・新旭川地域のまちづくりの検討と推進について

(1) 補助事業の進捗状況報告

今年度、活動を実施している2事業について、資料2のとおり進捗状況を確認した。

ア 西地区多世代交流この指と～まれ

実施団体の西地区多世代交流この指と～まれ実行委員会とともに事業構築に携わった旭川市地域まるごと支援員の成田氏から、進捗状況について報告があった。

主な内容は次のとおり。

- ・この事業は協議会の負担金を利用して活動しています。
- ・昨年度は2回開催し、2回目にカーリンコンをしたところ、子供から高齢者までみんなが楽しめる競技であったため、今年度はカーリンコンを通した多世代交流をすることとしました。
- ・小学校を利用して開催したいという地域の要望が強かったため、新町小学校の体育館をお借りしました。
- ・当日は土曜日でしたが、近隣にある保育園の園児も参加してくれ、地域のボランティアや実行委員と一緒にカーリンコンと昔遊びをしました。
- ・昔遊びは、めんこ、お手玉、紙相撲、あやとり、ビー玉、こまなどを用意し、地域の高齢者が、幼児や小学生を相手に遊び方を教えながら交流した。
- ・当日は48名の地域住民が参加し、そのうち子供は16名でした。

イ 朝日地域食堂「ひまわり」

実施団体の朝日地区ひまわりの会に参画する素野委員から、進捗状況について報告があった。

主な内容は次のとおり。

- ・この会は、5年ほど前に地域の有志が集まって子供食堂を開催しようと始めたものです。また、子供たちにただ食事を提供するのではなく、一緒に作る体験もしてもらおうほうが良いのではないかと思い実施しています。
- ・市民委員会、地区社協、民児協、地域の方が中心となり活動していますが、最近は高校生や大学生にもボランティアとして活動してもらえないか声掛けをしています。
- ・当初は30人のスタッフで60人の利用者だったが、徐々に利用者が増え直近の子供食堂では利用者が150人になった。最初は60人でも精一杯で、今も精一杯ではあるが段々と利用者が増えても回せるようになってきた。
- ・今年は能登半島で災害があり多くの避難所が開設されたが、旭川にとっても他人事ではない。災害があった際には自分たちで避難所を運営しないとならないが、不特定多数の人が来ることが想定されるため、日頃から地域の人との関係性を築いていないと有事の際に混乱してしまう。子供食堂のつながりを生かして、防災研修などを実施していきたいと計画している。
- ・子供食堂はやってあげているのではなく、やらせてもらっていると考えている。今は元気に

活動できているが、そのうち高齢になったときに地域の人たちのお世話になるから、それを想像すると偉そうなことは言えない。

(2) 意見交換『子どもと地域のつながり』について

子どもと地域のつながりをテーマとし、2つのグループに分かれて意見交換を行い、その内容を発表し全体で共有を図った。

共有した内容については、今後も引き続き協議を行うこととした。

意見交換における主な内容は次のとおり。

- ・現状で子供のためにしていることは見守り活動や夏祭りだが、一部の地区では夏祭りの太鼓の音がうるさいと苦情があったため、開催をやめたところもある。
- ・とある町では、一人暮らしの高齢者のゴミ出しを中学生が手伝うという取り組みがあると聞いた。独居老人と子供たちとの実のある交流をできないかと考えるが、簡単にできることではない。学校の仲介が必須だが、学校は地域にどのような期待をしているのか。何かやるにしても働き方改革により教員の土日の活動は難しいとか、地域や保護者への説明責任や子供の安全保障など様々な制約があると思うが、協議会のような話し合いの場を利用すると、これまでの決まりきったことではない新しいアイデアが出てくるのではないだろうか。

3 その他

(1) 推進プログラムについて

来年度に向けて、中央・新旭川まちづくり推進プログラムの改訂をするため、後日、意見照会をさせていただく。出てきた意見を集約し、次回の協議会で内容の確認をする予定である。

(2) 次回の協議会について

次回の協議会は、改めて日程を案内することとなった。

4 閉会